

信州大学医学部医学科

診療科別臨床実習の到達目標

臨床実習における学習目標 「内科共通」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	一般内科診療ができる。	1 実患者の医療面接を実践できる。
		2 基本的身体診察とその解釈ができる。
		3 プロブレムリストと鑑別診断を挙げ、検査計画を立案できる。
		4 検査結果の解釈ができる。
		5 治療方針を立案できる。
		6 1-5をPOMR形式でカルテ記載できる。
		7 1-5を指導医に説明できる。
		8 受け持ち患者のサマリーを作成できる。
2	患者を含めたチーム医療が実践できる。	1 挨拶ができる。
		2 患者、家族とコミュニケーションを取ることができる。
		3 チーム内でのコミュニケーションが取れる。
		4 指導医とともにインフォームドコンセントに参加、実施できる。
		5 適切なコンサルトを行うことができる。
		6 指導のもとで患者の治療、患者教育が実践できる。
		7 カンファレンスでプレゼンテーションができる。
3	基本的な手技を身に付ける。	1 「信州大学の医学生における臨床実習の目標」のI-Aをすべて身に付ける。

臨床実習における学習目標 「呼吸器内科」			
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)			
1	呼吸器特有の疾患を、想起・解釈の上、問題解決ができる。	1	担当患者の症候(発熱・咳・痰・呼吸困難等)から、呼吸器疾患を想起・解釈し、問題解決する。
		2	担当患者と適切にコミュニケーションが取れ、病歴聴取ができる。
		3	担当患者の呼吸器疾患(COPD・喘息・肺癌・肺炎・結核等)の病態を理解する。
2	呼吸器疾患を適切に診断できる。	1	緊急性・重症度・危険度を的確に判断できる。
		2	適切に診察(聴診・打診等)ができる。
		3	静脈採血が安全にでき、検査結果を理解できる。
		4	画像診断(胸部X線写真・胸部CT)ができる。
		5	適切に喀痰を採取し、検査(細胞診・一般細菌・抗酸菌)結果を理解できる。
		6	気管支鏡検査の適応(禁忌)・合併症と検査結果の解釈ができる。
		7	呼吸機能検査の適応(禁忌)と検査結果の解釈ができる。
3	呼吸器疾患を適切に管理・治療・予防できる。	1	担当患者の呼吸器疾患(COPD・喘息・肺癌・肺炎・結核等)の治療を理解する。
		2	酸素療法の実際を理解し、立案できる。
		3	薬物治療(抗菌薬・抗癌薬・ステロイド等)の作用・副作用を理解した上で、担当患者に対する投与計画を立案できる。
		4	生活環境因子から来る呼吸器疾患に対し、生活指導(禁煙指導等)ができる。
		5	呼吸器感染症の予防(ワクチン・院内感染対策等)を立案できる。
		6	急性期の呼吸管理や在宅医療を理解し、立案できる。
4	医師としての一般的な素養を身に付ける。	1	患者・家族と良好なパートナーシップが構築できる。
		2	医療チームの一員として、指導医やコメディカルと適切なコミュニケーションが取れる。
		3	指導医とともに患者・家族に病状や治療経過を説明できる。
		4	カンファレンスで的確なプレゼンテーションができる。
		5	担当患者の診療録を適切に記載できる。
		6	担当患者の病歴要約を適切に作成できる。

		臨床実習における学習目標 「循環器内科」	
		6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	循環器的立場から一般診察ができる。	1	現病歴、既往歴、生活歴、家族歴が聴取できる。
		2	視診、触診(末梢動脈)、聴診ができる。
		3	体表の浮腫の観察ができる。
		4	狭心症や心不全の重症度が評価できる。
2	循環器的立場から診察した症候の鑑別診断ができる。	1	胸痛の鑑別ができる。
		2	呼吸困難の鑑別ができる。
		3	動悸の鑑別ができる。
		4	失神の鑑別ができる。
		5	浮腫の鑑別ができる。
3	必要な検査をオーダーし、実施して評価できる。	1	バイタルサインをチェックして、結果を評価できる。
		2	心電図を記録して、結果を評価できる。
		3	胸部X線・CTを評価できる。
		4	心臓超音波検査を実施して、評価できる。
		5	血液検査を実施して、結果を評価できる。
		6	血管造影の適応を考え、評価できる。
4	診断に基づいて、治療方針を立案できる。	1	冠動脈疾患の治療を立案できる。
		2	急性心不全の治療を立案できる。
		3	生活指導を含む慢性心不全の治療を立案できる。
		4	不整脈の重症度を評価して、治療を立案できる。
		5	大動脈疾患の治療を立案できる。
		6	高血圧の治療を立案できる。
		7	肺血栓塞栓症の治療を立案できる。
5	一般内科に必要な基本的診察を身に付ける。	1	病歴聴取ができる。
		2	基本的身体診察の中で聴診、触診を重視する。
		3	担当症例のプレゼンテーションができる。
		4	必要な場合に他科コンサルトを依頼できる。

臨床実習における学習目標 「消化器内科」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)		
1	消化器疾患の主要症候の鑑別ができる。	1 腹痛(急性腹症を含む)をきたす疾患の鑑別ができる。
		2 吐血・下血をきたす疾患の鑑別ができる。
		3 黄疸をきたす疾患の鑑別ができる。
		4 嘔吐・下痢をきたす疾患の鑑別ができる。
		5 食欲不振をきたす疾患の鑑別ができる。
2	各手技・検査の意義を理解する。	1 医療面接ができる。
		2 腹部の理学的所見を取ることができる。
		3 血液検査の意義が理解できる。
		4 腹部超音波検査を実践できる。
		5 腹部単純Xp・CT・MRI検査の読影ができ、造影剤の偶発症を理解できる。
		6 上下部消化管内視鏡検査の適応を学ぶ。
3	担当患者の各疾患の治療方針を立てることができる。	1 腹痛(急性腹症を含む)を診断し、その治療方針を立てることができる。
		2 吐血・下血を診断し、その治療方針を立てることができる。
		3 黄疸を診断し、その治療方針を立てることができる。
		4 嘔吐・下痢を診断し、その治療方針を立てることができる。
		5 食欲不振を診断し、その治療方針を立てることができる。
4	主要症候の鑑別ができる。	1 発熱の鑑別ができる。
		2 体重減少の鑑別ができる。
		3 全身倦怠感の鑑別ができる。
		4 浮腫の鑑別ができる。
		5 意識障害の鑑別ができる。
5	主要症候の検査計画を立て、治療方針を立てられる。	1 発熱をきたす疾患に対して検査計画を立て、治療方針を立てられる。
		2 体重減少をきたす疾患に対して検査計画を立て、治療方針を立てられる。
		3 全身倦怠感をきたす疾患に対して検査計画を立て、治療方針を立てられる。
		4 浮腫をきたす疾患に対して検査計画を立て、治療方針を立てられる。
		5 意識障害をきたす疾患に対して検査計画を立て、治療方針を立てられる。
6	その他	1 受け持ち患者のサマリーを作成できる。
		2 カンファレンスでプレゼンテーションができる。
		3 患者・家族に治療経過を説明できる。
		4 慢性消化器疾患の治療を理解できる。
		5 消化器癌の緩和ケアを理解できる。

臨床実習における学習目標 「血液内科」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)		
1	血液疾患の主要症候の鑑別ができる。	1 貧血をきたす疾患の鑑別ができる。
		2 リンパ節腫脹や肝脾腫をきたす疾患の鑑別ができる。
		3 出血傾向をきたす疾患の鑑別ができる。
		4 発熱をきたす疾患の鑑別ができる。
		5 白血球異常をきたす疾患の鑑別ができる。
2	担当患者の疾患について理解する。	1 疾患概念を理解する。
		2 診断方法と検査について理解する。
		3 鑑別診断について理解する。
		4 治療方針について理解する。
		5 治療の効果と副作用について理解する。
		6 疾患の予後について理解できる。
3	検査の内容と結果を理解する。	1 血液検査の結果を理解できる。
		2 末梢血または骨髄の形態を理解できる。
		3 骨髄検査や病理検査の結果を理解できる。
		4 染色体検査や遺伝子検査の結果を理解できる。
		5 画像検査の結果を理解できる。
4	病棟や外来実習ができる。	1 医療面談ができる。
		2 身体所見を取ることができる。
		3 主治医や他の実習生とディスカッションができる。
		4 プレゼンテーションができる。
		5 レポートをまとめることができる。

臨床実習における学習目標 「腎臓内科」		
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	腎臓疾患の主要症候の鑑別ができる。	1 浮腫をきたす疾患の鑑別ができる。
		2 蛋白尿をきたす疾患の鑑別ができる。
		3 血尿をきたす疾患の鑑別ができる。
		4 電解質異常をきたす疾患の鑑別ができる。
2	腎機能障害をきたす疾患の鑑別ができる。	1 急性腎不全と慢性腎不全の鑑別ができる。
		2 腎前性、腎性、腎後性の鑑別ができる。
		3 鑑別に必要な検査計画を立てることができる。
3	慢性腎臓病患者の治療計画を立てることができる。	1 腎疾患に対する薬物治療について知ることができる。
		2 慢性腎臓病に対する栄養指導を理解し、患者に対し指導することができる。
		3 慢性腎臓病に対する生活指導を理解し、患者に対し指導することができる。
		4 腎代替療法の導入基準について理解することができる。
4	主要な検査の目的を理解し、結果を解釈することができる。	1 尿検査(尿定性、尿沈査、尿化学)について理解できる。
		2 血液検査項目の目的を理解し、結果から病態が推測できる。
		3 腎機能の評価法について理解し、腎機能が評価できる。
		4 画像検査の結果が理解できる。
		5 腎生検の適応と病理検査結果の解釈ができる。
5	血液浄化療法について理解し、説明することができる。	1 血液透析について理解することができる。
		2 腹膜透析について理解することができる。
		3 腎移植(生体腎移植、献腎移植)について理解できる。
		4 腎代替療法の療法選択について他人に説明することができる。
		5 血漿交換などのアフェレシス治療の適応が理解できる。
6	担当患者に対する診療を行い、必要な検査・治療計画を提案することができる。	1 医療面接ができる。
		2 身体所見を取ることができる。
		3 症例のプレゼンテーションができる。
		4 カンファレンスで検査・治療に対するディスカッションができる。
		5 担当患者に対する輸液の計画が立てられる。

臨床実習における学習目標 「神経内科」			
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)			
1	一般内科診療ができる。	1	実患者の医療面接を実践できる。
		2	基本的身体診察とその解釈ができる。
		3	プロブレムリストと鑑別診断を挙げ、検査プランを立てられる。
		4	検査結果の解釈、診断ができる。
		5	治療方針を立案できる。
		6	上記の事柄を適切にカルテ記載できる。(POMR)
2	患者を含めたチーム医療が実践できる。	1	患者、家族と適切なコミュニケーションを取ることができる。
		2	チーム内でのコミュニケーションが取れる。
		3	指導医とともに結果の説明、治療方針の検討に参加できる。
		4	指導医とともにインフォームドコンセントに参加、実施できる。
		5	指導のもとで患者の治療、患者教育が実践できる。
3	神経救急を実践できる。	1	意識障害を含むバイタルサインの評価ができる。
		2	緊急度を意識した問診を行い、鑑別診断を上げることができる。
		3	頭痛、めまいの診察と鑑別ができる。
		4	麻痺の評価ができる。
		5	指導医とともに患者や家族に対して検査、病態の説明ができる。
		6	適切なコンサルトを行うことができる。
4	外来の場で神経内科患者の診療ができる。	1	神経疾患を意識した適切な病歴聴取ができる。
		2	実際の患者さんで認知機能検査を含めた基本的な神経所見を取ることができる。
		3	所見を判断し、鑑別診断、検査プランを立てる。
		4	神経画像検査、髄液検査などの検査の解釈と説明ができる。
		5	指導医とともに治療方針の立案に参加できる。
		6	多職種を含めた適切なコンサルトを行うことができる。
5	入院の場で神経内科患者の診療ができる。	1	神経内科入院患者の管理、治療に参加できる。
		2	神経徴候を評価、解釈できる。
		3	多職種を含めた慢性期神経内科患者の診療に参加できる。
		4	社会的背景の把握、介入のマネージメントに参加できる。
		5	退院支援の立案、実践に参加できる。
		6	退院後の在宅診療の現場での実習に参加する。

臨床実習における学習目標 「リウマチ・膠原病内科」		
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	一般内科診療ができる。	1 実患者の医療面接を実践できる。
		2 基本的身体診察とその解釈ができる。
		3 プロブレムリストと鑑別診断を挙げ、検査プランを立てられる。
		4 検査結果の解釈、診断ができる。
		5 治療方針を立案できる。
		6 上記の事項を適切にカルテに記載できる。(POMR)
2	患者を含めたチーム医療が実践できる。	1 患者、家族と適切なコミュニケーションを取ることができる。
		2 チーム内でのコミュニケーションが取れる。
		3 指導医とともに結果の説明、治療方針の検討に参加できる。
		4 指導医とともにインフォームドコンセントに参加、実施できる。
		5 指導のもとで患者の治療、患者教育が実施できる。
3	主要症候の鑑別ができる。	1 発熱の鑑別ができる。
		2 関節痛の鑑別ができる。
		3 皮疹の鑑別ができる。
		4 浮腫の鑑別ができる。
		5 意識障害の鑑別ができる。
4	必要な検査を実施して、結果を評価できる。	1 バイタルサインをチェックして、結果を評価できる。
		2 血液検査を実施して、結果を評価できる。
		3 自己抗体検査の結果を評価できる。
		4 画像検査(CT、MRI)の結果を評価できる。
		5 関節診察を通じて関節穿刺の適応を判断できる。
5	リウマチ・膠原病疾患を適切に管理・治療・予防できる。	1 ステロイドの作用・副作用を理解し、投与計画を立案できる。
		2 免疫抑制剤の作用・副作用を理解し、投与計画を立案できる。
		3 抗リウマチ薬の作用・副作用を理解し、投与計画を立案できる。
		4 生活指導(紫外線を避ける、寒冷刺激を避ける)ができる。
		5 感染症の予防、スクリーニングを立案できる。

臨床実習における学習目標 「糖尿病内科」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	患者に実際に接し、病態を適切に診断する。	1 医療面接を行い、必要な病歴を聴取できる。
		2 合併症に配慮した身体診察ができる。
		3 検査結果を評価し、糖尿病の診断ならび病型分類ができる。
		4 生活背景を含めた糖尿病の問題点を列記する。
		5 血糖を測定する。
		6 合併症評価に必要な検査を立案し、説明できる。
2	糖尿病の治療を立案する。	1 個々の患者の食事療法を立案し、食事指導に参加する。
		2 個々の患者の運動療法を立案する。
		3 個々の患者の薬物療法(副作用を含む)について説明する。
		4 個々の患者の合併症の予防と治療について具体的に説明する。
		5 糖尿病患者についての外来病棟連絡会議に参加し、問題解決に向けた意見が述べられる。
		6 周術期の血糖管理について指導医とともに立案する。
		7 低血糖時の対応について指導医とともに患者に説明できる。
3	糖尿病予防について理解する	1 糖尿病の予防について具体的に指導医とともに説明する。
		2 糖尿病教室に参加する。

臨床実習における学習目標 「内分泌代謝内科」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)		
1	患者に実際に接し、病態を適切に診断する。	1 患者や家族と適切なコミュニケーションを取ることができる。
		2 医療面接を行い、必要な病歴を聴取できる。
		3 診断のために必要な身体診察ができる。
		4 病歴および身体診察からプロブレムリストならびに鑑別診断を挙げることができる。
		5 病歴および身体所見を適切に診療録へ記載できる。
2	内分泌疾患および代謝疾患を診断するための検査を立案する。	1 内分泌疾患ならびに代謝疾患の診断のために必要な検査を挙げ、検査計画を立案できる。
		2 内分泌(負荷)検査の計画を立て、指導医とともに患者ならびに家族に検査内容について説明できる。
		3 内分泌(負荷)検査の結果を解釈できる。
		4 診断に必要な画像検査を計画し、その読影ならびに評価ができる。
		5 上記の結果から内分泌疾患および代謝疾患を診断できる。
3	内分泌疾患および代謝疾患の治療を立案する。	1 内分泌疾患および代謝疾患の治療法を列挙できる。
		2 症例にふさわしい治療法を選択し、指導医と検討できる。
		3 患者や家族に対して、指導医とともに病状や治療について説明できる。

臨床実習における学習目標 「精神科」	
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	医療面接:病歴、既往歴、生活史、家族歴、薬剤歴、遺伝負因などの情報を、患者、家族等から聴取することができる。
2	精神科診断学の初歩:精神疾患の大まかな体系的分類(器質性、心因性、内因性精神病)を説明できる。
3	精神症状評価の基本:正常心理か異常・病的心理かの大まかな判別についての説明ができる。
4	プライマリーケアの場における不眠、せん妄、不定愁訴などの対応について説明ができる。
5	認知症に関する診断、評価、治療、福祉、地域資源、介護保険、地域包括ケア、医療連携などについて説明できる。
6	精神科専門医に紹介すべきか否かの評価・判断(幻覚妄想、希死念慮、興奮、暴力など)ができる。
7	器質性、症状性精神障害(内分泌代謝疾患、神経疾患など)について説明できる。
8	統合失調症の急性期・慢性期の病状、診断、治療について説明できる。
9	うつ病・双極性障害の病状、診断、治療について説明できる。
10	パニック障害・不安障害の病状、診断、治療について説明できる。
11	向精神薬(抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬)の効果、副作用、有害事象について理解している。
12	精神保健福祉法の基本的事項(精神科入院制度、行動制限など)について理解している。
13	医療福祉制度・医療資源の基本的事項(障害者年金、精神科通院制度、自立支援法など)について理解している。
14	精神科救急(異常興奮状態、自傷他害行為など)の基本的な知識と対応、必要に応じて精神科への紹介、関係機関との連携について理解している。

臨床実習における学習目標 「小児科」	
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	身体所見(胸部、腹部、口腔内など)がとれる。
2	正確な問診(成長発達歴、感染症の既往含む)が(保護者から)とれる。
3	年齢に応じた正常(バイタルサイン・検査値など)がわかる。
4	小児common diseaseを理解する。
5	こどもとのコミュニケーションの重要性を理解、実践できる。
6	小児救急疾患(けいれん、ぜんそく、脱水など)について理解する。
7	成人(大人)との違い(輸液、投薬なども)を理解する。
8	小児保健が理解できる。(予防接種、発育・発達の評価など)
9	病態に合わせた検査計画が立てられる。

臨床実習における学習目標 「皮膚科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	病歴を皮膚症状に応じて適切に聴取できる。
2	皮疹の性状を医学的に記載できる。
3	アレルギー検査を理解し、適応を判断できる。
4	細菌、ウイルスの検査の実際を理解する。
5	真菌検査(苛性カリ法)を見学し手順を理解する。
6	皮膚病理の基本的所見を説明できる。
7	炎症性皮膚疾患の種類、原因、症状、治療法を説明できる。
8	皮膚腫瘍の症状と診断法を説明できる。
9	一般的な創傷処置が行える。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	皮膚テスト(パッチテスト、皮内テスト、プリックテスト)を行える。
2	細菌培養を行える。
3	ウイルス細胞診を行える。
4	真菌検査(苛性カリ法)を適切な検体採取を行い、診断できる。
5	光線テストと光線治療の適応と方法を説明できる。
6	ダーモスコープの所見を説明できる。
7	簡単な縫合が行える。

臨床実習における学習目標 「放射線科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	画像の種類(US・X線写真・CT・MRI・核医学)を識別できる。
2	DICOM viewer を用いた画像表示条件調整を体験する。
3	画像検査(US・X線写真・CT・MRI・核医学)の適応や禁忌について説明できる。
4	MR画像(T1強調像・T2強調像・FLAIR像・拡散強調像・造影MRI)の違いを識別できる。
5	造影剤の種類、適応、禁忌、副作用について説明できる。
6	患者・医療従事者の放射線防護について説明できる。
7	X線写真・CT・MRIで臓器を同定できる。
8	Common disease の画像所見を説明できる。
9	放射線治療計画を体験する。
10	IVRの適応を理解し、助手を体験する。
11	核医学検査の目的を理解し、実際の手順を体験する。
12	USの適応および構造を理解し、実際の手技(頸部・腹部)を体験する。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	X線写真・CT・MRIで臓器の構造を説明できる。
2	画像所見(US・X線写真・CT・MRI・核医学)を読み取り、鑑別疾患を挙げることができる。
3	IVRに参加し、そのケースプレゼンテーションができる。
4	放射線治療の適応判断ができる。

		臨床実習における学習目標 「一般外科」	
		6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	外科疾患の症候の把握ができる。	1	医療面接、身体所見がとれる。
		2	外傷：感染併存の有無を判断できる。
		3	体表疾患：乳房触診手技を理解できる。 頸部触診手技を理解できる。
		4	内臓疾患：腹膜刺激徴候を理解できる。 直腸診手技を理解できる。
2	検査・手技の意義と結果を理解する。	1	血液、生化学検査、尿検査：静脈採血を実施できる。
		2	画像検査(XP、US、CT、MRIなど)：画像検査を読影できる。
		3	内視鏡検査
		4	病理組織検査
		5	細菌検査
3	疾患の診断・鑑別を理解する。	1	外傷
		2	体表疾患：手術症例のプレゼンテーションができる。
		3	内臓疾患：手術症例のプレゼンテーションができる。
4	疾患の治療方針を立てることができる。	1	外傷：治療方針を立案し、プレゼンテーションできる。 専門医への紹介。
		2	体表疾患：治療方針を立案し、プレゼンテーションできる。
		3	内臓疾患：治療方針を立案し、プレゼンテーションできる。
5	外科的手技及び手術を理解する。	1	清潔操作、手指消毒、手洗い、ガウンテクニック。
		2	創処置、皮膚消毒、ガーゼ交換結さつ、縫合の基本手技、抜糸。
		3	手術操作・手順の理解ができる。 手術助手を経験する。
		4	侵襲的処置の介助ができる。
		5	手術スタッフとのコミュニケーションが取れる。
		6	皮膚切開、簡単な皮膚縫合。
6	周術期管理を理解する。	1	術前併存症を理解する： ハイリスク症例の鑑別ができる。 呼吸器リハビリ、栄養評価、口腔ケア。 深部静脈血栓症のリスク評価。 紹介状が書ける。 クリニカルパスを理解できる。
		2	術中合併症を理解する：輸血の準備ができる。 クリニカルパスを理解できる。
		3	術後合併症を理解する：クリニカルパスを理解できる。 深部静脈血栓症のリスク評価。
		4	病棟スタッフとのコミュニケーション。 チーム医療を理解する。

臨床実習における学習目標 「整形外科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	外来新患の問診項目をグループで話し合うことができる(職業、受傷機序、両側性、発症日時、症状の程度など)。
2	身体所見が取れる : 徒手筋力検査、関節可動域の測定など。
3	入院患者の病状評価 : バイタルサインチェック、神経麻痺、循環障害など。
4	画像 : 骨の名称、左右、などの識別ができる。
5	ギプス固定&カットなどの補助ができる。
6	受け持ち症例の病状変化を指導医と討議できる。
7	ガウンテクニックができる。
8	創処置(消毒、抜糸など)ができる。
9	手術助手として、筋こう、糸結び、糸切りができる。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	問診、検査(単純X線 血液検査)のオーダーなど、必要な診療の流れが理解できる。
2	画像を用いて骨折の診断ができる。
3	入院治療計画を理解できる。
4	手術ミーティング時、受け持ち患者のプレゼンテーションができる。
5	入院患者の全身状態を把握して主治医と討議できる。
6	歩行訓練、関節可動域訓練など基本的なリハビリテーションの処方ができる。
7	皮膚縫合ができる。
8	診断治療に必要な文献を検索できる。
9	主治医と協力して患部への三角巾、シーネ固定ができる。
10	(模型を用いた整形外科手術(骨折、関節鏡、人工関節など)を経験する。)

臨床実習における学習目標 「脳神経外科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	JCSとGCSを用いて意識障害の評価ができる。
2	神経学的所見がとれる。
3	頭部外傷・脳卒中の画像診断、基本的な治療方針を理解する。
4	練習用顕微鏡とシミュレーターを用い、顕微鏡実習とカテーテル実習を経験する。
5	顕微鏡手術に参加する。
6	脳神経外科症例のプレゼンテーションを行う。
7	脳神経外科疾患に関する英語文献をPubmedで検索し、要約し、発表する。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	代表的な脳腫瘍・脳卒中・頭部外傷の知識を習得する。
2	脳卒中患者の初期診療からリハビリテーション・退院支援まで理解する。
3	脳神経外科手術の清潔度を理解する。
4	上記に準じた清潔操作、ガウンテクニックを身に付ける。
5	手術助手を経験する。
6	練習用顕微鏡下で人工血管の縫合ができる。
7	症例のプレゼンテーションを行い、治療方針について議論できる。

臨床実習における学習目標 「歯科口腔外科」	
Basic clinical clerkship終了時まで達成すべき目標	
1	頻度の高い歯科疾患について理解し、説明することができる。
2	歯科治療について理解し、治療の手順および用いる医療材料を説明できる。
3	う歯および歯周病の全身への影響を説明できる。
4	口腔内を診察し、異常の有無を診断できる。
5	歯および口腔顎顔面外傷を診断し、治療を概説できる。
6	口腔がんを診断し、治療を概説できる。
7	抜歯処置および顎関節脱臼整復の手順を理解し、説明できる。
8	摂食嚥下困難・障害の原因と病態を理解し、診断法を説明できる。
9	代表的な嚥下機能検査の補助ができる。
10	口腔ケアについて、必要性和具体的な内容を説明できる。
11	全身疾患・各種医療行為によって生じる口腔内変化を説明できる。

臨床実習における学習目標 「泌尿器科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	尿検査の結果を説明できる。
2	超音波検査の適応を決定できる。
3	シミュレーターを用いて直腸診の所見を理解し、説明できる。
4	ガウンテクニックを施行できる。
5	泌尿器科用語集の略語を理解する。
6	TURセットの仕組みを理解できる。
7	泌尿器科疾患にかかる英語論文を各自がpubmedで検索し、要約し、発表する。
8	シミュレータを用いて、導尿手技を経験する。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	泌尿器科的解剖を理解し、説明できる。
2	手術患者の尿道カテーテルを留置できる。
3	超音波検査を施行できる。
4	シミュレーターを用いて、腰椎麻酔の手法を理解し、取得する。
5	排尿質問表(IPSS)を理解し、診断治療に応用できる。
6	外性器の触診ができ、所見を述べることができる。
7	手術助手を経験する。
8	症例呈示を行い、問題点を挙げるができる。
9	代表的な泌尿器科腫瘍の知識を習得する。
10	手術器具を組み立てられる。

臨床実習における学習目標 「眼科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	患者に不快感を与えないような身だしなみで実習を行うことができる。
2	視覚障害者に正しく接するために、緑内障・白内障・加齢黄斑変性など、疾患ごとの視覚障害パターンを理解し、説明することができる。
3	緑内障・白内障・加齢黄斑変性などの代表的な眼科疾患とその所見について理解する。
4	糖尿病網膜症やバセドウ病などの全身疾患と関連性の高い疾患について理解する。
5	細隙灯顕微鏡を用いて前眼部の診察を行うことができる。
6	非接触式眼圧計を使用して、眼圧を測定することができる。
7	ブタの眼球を使用したシミュレーションで白内障手術を施行し、それぞれの手技の意味を理解することができる。
8	手術室での清潔度を理解し、手洗いおよびガウンテクニックを適切に行うことができる。
9	眼科手術の助手として角膜保護・糸切りを行うことができる。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	外来で医療面接を行い、症状に応じた検査計画を立案することができる。
2	矯正視力検査を行うことができる。
3	倒像鏡を使用して、散瞳下で眼底を観察することができる。
4	眼底写真撮影、光干渉断層計検査、超音波検査を行い、所見を述べることができる。
5	受け持ち患者を、カンファレンスで提示することができる。
6	眼科手術器械の取扱い法を習得し、適切な片付けを行うことができる。
7	緊急対応を要する眼科疾患とその症状・所見などについて理解する。

臨床実習における学習目標 「耳鼻咽喉科」	
Basic clinical clerkship終了時まで達成すべき目標	
1	担当となる入院患者から、症状に応じた病歴聴取ができる。
2	術前術後の検査、処置を補助できる。
3	オーディオメーターを使った聴力検査を体験する。
4	採血検査を学生同士で実施する。針の廃棄の仕方など安全に配慮できる。
5	キットを用いてアレルギー検査を体験し、手順を把握する。
6	耳鏡、鼻鏡、舌圧子の使い方を復習する。
7	シュミレーターを使って皮膚縫合ができる。
8	教授回診で受け持ち患者のプレゼンテーションができる。
9	診療会議において、受け持ち患者の術前術後のプレゼンテーションができる。
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	外来において初診患者の医療面接を行い、病歴聴取ができる。
2	耳鼻科診療器具を用いて、患者の身体所見をとることができる。
3	得られた問診、身体所見から、診断のための基本的な検査を組み立てることができる。
4	手術において、解剖学的考察を加えながら手順を説明できる。
5	術前術後の処置を補助できる。
6	耳鼻科の基本的な検査(聴覚、前庭機能)を学生同士で行う。
7	手術に入り、可能であれば皮膚縫合をする。
8	受け持ち患者について文献的考察ができる。
9	教授回診で担当患者のプレゼンテーションができ、討論ができる。下級生の指導ができる。
10	診療会議で、担当患者の術前術後のプレゼンテーションができ、討論できる。下級生の指導ができる。

臨床実習における学習目標 「産婦人科」	
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	産婦人科の特殊性に配慮して問診と診察が行える。
2	正常妊娠分娩経過を経験し、理解する。
3	アプガースコアを付けることができる。
4	婦人科腫瘍の検査結果を評価し、治療法を理解できる。
5	帝王切開術等の第二助手を経験する。
6	産婦人科救急疾患の症状、診断法、対処法を理解できる。
7	内診と経膈超音波検査を経験し、評価できる。
8	妊娠中の腹部超音波検査を経験し、評価できる。
9	妊娠合併症と異常分娩経過の診療を経験し、理解する。
10	会陰縫合の介助ができる。
11	妊娠中の薬物療法、検査、処置の安全性を理解できる。
12	正常月経を理解し、月経異常を評価できる。

臨床実習における学習目標 「麻酔科蘇生科」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	手術室内における清潔・不潔を説明できる。
2	滅菌手袋を正しく装着できる。
3	静脈留置針の正しい使用法を説明できる。
4	手術を考慮して、心電図、血圧計、サチュレーションのモニターを正しく装着できる。
5	症例検討会で麻酔計画をプレゼンテーションできる。
6	英語論文を要約し、発表する。
7	シュミレーションモデルに正しく気管挿管が実施できる。
8	Difficult Airway Managementのアルゴリズムに沿って、シュミレーターで実践できる。
9	シュミレーションを用いてACLSを実践できる。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできていてほしい目標)	
1	指導下に、末梢静脈確保ができる。
2	指導下に、マスク換気ができる。
3	気管挿管の準備ができる。
4	術前診察を見学し、麻酔上の問題点を挙げ、麻酔計画を立案できる。
5	指導医とともに、術後回診を経験する。
6	麻酔科領域に関する英語論文を検索し、要約し、発表する。
7	慢性疼痛患者やがん性疼痛患者の心情を理解し、診察できる。
8	ICUの患者を診察できる。

臨床実習における学習目標 「形成外科」	
Basic clinical clerkship終了時まで達成すべき目標	
1	形成外科的な疾患を理解することができる。
2	形成外科的観点からの診察ができる。
3	診療録の記載ができる。
4	診療補助として参加し、一般的な創傷処置の準備および処置を行うことができる。
5	傷をきれいに治す形成外科的な縫合法を理解できる。
6	手術時の準備として、局所麻酔薬の選択、術野の消毒ができる。
7	手洗いおよびガウンテクニックを的確に行うことができる。
8	清潔操作を理解し、的確に行うことができる。
9	基本的な手術器具の名称および用途を理解し、使用できる。
10	手術助手として術野の展開および糸切りができる。
11	手術創部のドレッシングおよび固定を行うことができる。
12	入院患者の術後管理および処置、回復過程について学ぶ。
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	基本的な創傷被覆材および軟膏の選択と使用ができる。
2	局所麻酔を行うことができる。
3	部位に応じた縫合糸の選択と形成外科的な縫合法を理解できる。
4	傷をきれいに治すために有効な形成外科的な皮膚切開のデザインを理解できる。
5	傷をきれいに治すための創傷処置を理解して行うことができる。
6	難治性皮膚潰瘍の診断と処置を行うことができる。
7	形成外科的な再建手術について理解できる。
8	熱傷の診断と治療法について理解できる。
9	形成外科によるquality of lifeを重視した医療を理解できる。

臨床実習における学習目標 「救急」		
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	救急外来診療の基本を身に付ける。	1 問診を実施する。
		2 身体診察を実施する。
		3 鑑別疾患に基づいた検査計画を立てる。
		4 検査結果を解釈する。
		5 カルテ記載とプレゼンテーションを行う。
2	緊急度の判定を理解する。	1 院内トリアージを経験する。
		2 バイタルサインを評価する。
		3 救急隊からの申し送りに参加する。
3	救急外来における主要兆候の対応を修得する。	1 発熱患者の初期診断をする。
		2 頭痛患者の初期診断をする。
		3 胸痛患者の初期診断をする。
		4 呼吸困難患者の初期診断をする。
		5 腹痛患者の初期診断をする。
		6 ショック患者の初期診断をする。
		7 意識障害患者の初期診断をする。
4	蘇生処置を修得する。	1 一次救命処置を実践する。
		2 心電図波形について説明する。
		3 気管挿管を介助する。
		4 電氣的除細動を介助する。
5	外傷のマネージメントを理解する。	1 外傷初期診療の概略を述べる。
		2 圧迫止血を実施する。
		3 固定と包帯を実施する。
		4 創縫合と抜糸を行う。
		5 消毒とガーゼ交換を行う。
6	救急検査・処置を修得する。	1 胃洗浄の適応を述べる。
		2 熱傷処置を介助する。
		3 超音波(FASTなど)を実施する。
		4 血液型判定と輸血について述べる。
		5 眼底鏡・耳鏡・鼻鏡による観察を実施する。
		6 静脈路確保を実施する。

臨床実習における学習目標
「プライマリケア」

6年生終了時までには達成すべき目標
(研修1年目4月の時点でできてほしい目標)

1	挨拶、自己紹介ができる。	
2	問診が取れる。	
3	最低限の視診、聴診、触診ができる。	
4	診察所見をカルテに記載できる。	
5	必要な検査を計画できる。	
6	経過を指導医に説明できる。	
7	鑑別診断を3つ挙げられる。	
8	目標素案のI-Aすべての習得。	
9	胸痛に対する診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診、聴診。
		2 検査の計画を立てられる。(心電図、採血、胸部レントゲンなど)
		3 鑑別診断を3つ挙げられる。
10	腹痛に対する診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診。
		2 腹膜刺激症状の有無がわかる。
		3 検査の計画を立てられる。(採血、腹部単純レントゲン、エコー、CTなど)
		4 鑑別診断を3つ挙げられる。
11	頭痛に対する診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診、意識障害の有無(GCS)。
		2 神経学的所見が取れる。(対光反射、麻痺の有無)
		3 髄膜刺激症状の有無がわかる。
		4 検査の計画を立てられる。(CTなど)
		5 鑑別診断を3つ挙げられる。
12	発熱に対する診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診、聴診。
		2 検査の計画を立てられる。(血液検査、尿検査、胸部レントゲン)
		3 鑑別診断を3つ挙げられる。
13	呼吸困難の診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診、聴診。
		2 検査の計画を立てられる。(血液ガス、胸部レントゲン、心電図など)
		3 鑑別診断を3つ挙げられる。
14	めまいの診断と治療が計画できる。	1 正確な問診と視触診、神経学的所見。(眼球運動など)
		2 鑑別診断を3つ挙げられる。(中枢性か末梢性か)
		3 検査の計画を立てられる。(頭部CT検査など)

臨床実習における学習目標 「臨床検査医学」	
Basic clinical clerkship終了時まで達成すべき目標	
1	病理標本の作成過程が説明できる。
2	病理システムから過去の症例を検索できる。
3	顕微鏡を使用して病理標本を観察できる。
4	自分が見た標本を説明できる。
5	ホルマリンの有毒性について説明できる。
6	主な検査の種類を説明できる。
7	検体を取り扱う際に感染防御ができる。
8	グラム染色ができる。
9	基準範囲、カットオフ値について説明できる。
6年生終了時まで達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	指導医の監督下で病理検体の切り出しができる。
2	指導医の監督下で剖検の補助ができる。
3	病理検体のマクロ、ミクロ写真が撮影できる。
4	カンファレンスで症例提示ができる。
5	細胞診の有用性が説明できる。
6	疾病以外に検査値に影響を及ぼす因子を挙げられる。
7	ルーチン検査(血算、生化学)が異常値となるメカニズムを説明できる。
8	ルーチン検査に使用する採血管を選ぶことができる。
9	心電図、簡易肺機能検査のやり方を教えることができる。
10	グラム陽性菌と陰性菌の鑑別ができる。

臨床実習における学習目標 「臨床腫瘍学」	
Basic clinical clerkship終了時までには達成すべき目標	
1	適切な医療面接ができる。
2	基本的な内科的診察ができる(頸部触診・胸部腹部理学所見が取れる)。
3	悪性腫瘍に関連した血液検査所見を評価できる。
4	悪性腫瘍に関連した心電図・胸部エックス線写真を読むことができる。
5	SOAPに準じて診療録の記載ができる。
6	症例の要約・考察ができる。
7	カンファレンスで症例のプレゼンテーションができる。
8	診断名からその治療選択を挙げられる。
9	基本的な治療薬剤を挙げられる。
10	臨床腫瘍医の役割が理解できる。
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)	
1	病期診断ができる。
2	治療選択肢を挙げられ、適切な治療法を提示できる。
3	基本的な化学療法剤を挙げられ、その作用機序や有害反応について説明できる。
4	放射線治療の適応・有害反応が説明できる。
5	必要な検査を挙げられ、検査予定を組み立てることができる。
6	WHOラダーを理解し、疼痛評価を行うことができる。
7	オピオイドを含めた鎮痛剤、鎮痛補助剤を説明できる。
8	指導医の監視のもと、静脈採血ができる。
9	胸腹水穿刺手技の介助ができる。
10	担がん患者の訴えに傾聴できる。
11	化学療法を行っている患者の症状を観察し、報告することができる。
12	疼痛緩和の治療計画を立てられる。